

侍 真 妙 開 ○ 下

維那曇樹闕 ○ 下

芥禪院智口花押 ○ 下略

査

〔倭名類聚抄山谷〕査 功程式云、甲賀査、山上査、査讀曾萬、所出未詳、但功程式者、修理筭師山田福吉等、弘仁十四年所撰上也。

〔箋注倭名類聚抄山谷〕功程式今無傳本、按甲賀近江國郡名、天武紀鹿深卽是、山上屬近江國栗本郡、萬葉集藤原宮役民歌所謂、衣手山上山、卽是也、査字皇國所造會意字、非漢字、然既見寶龜十一、年西大寺資財帳及延暦二十三年大神宮儀式帳、江談抄以爲山田福吉造是字者、蓋誤讀本書也、又按、曾万蓋山中殖樹木、爲採造屋材之處、萬葉集大伴家持歌所云和豆香蘇麻山、大神宮儀式帳、入査木本祭、西大寺資財帳有査圖皆是也、至是處採材者曰査人、萬葉集寄木歌云、真木柱作蘇麻人是也、今俗呼採材之人爲曾万、轉訛也、

〔伊呂波字類聚抄地儀〕査 ソマ

〔蓮步色葉集楚〕査 ソマ

〔書言字考節用集一乾坤〕査 山 ソマ
江談、査 本

〔同文通考四〕國字

査 ソマ 木在山也

〔東雅二地輿〕林 略 ○ 申 裁木の山にあるをソマといふ、義亦不詳、舊事紀、古語拾遺等に、手置帆負神彥、タオキホオヒ、サシ知神をして、大峠少峠之材を伐て、瑞殿ミツノミアラカを造られしと見えしは、其事後に査木を伐りて、宮材引などいふに同じければ、後にソマと云ひしは、上古に大峠少峠などいひしに同じかるべし、